意匠法 2 条 1 項の規定において意匠の構成要素と

認められるための要件

(「意匠登録出願の願書及び図面等の記載の手引き」抜粋)

1 3. 液晶等の表示部を有するものの場合

液晶等の表示部に表示される図形等は、通電によって初めて物品の外観として現れるものであり、また、表示される図形等がその物品固有のものでない場合もあります。そのため通電によって現れる図形等は、通常の模様を物品の外観に表した場合と違って一定の要件を満たしたもののみが意匠の構成要素となります。そして、意匠の構成要素と認められる図形等を含む意匠の扱いは、意匠に係る物品の種類、表示構造並びに表示された図形等の内容によって、下記のように3種類に大別されます。

なお、通電によって図形等が表示される方式には、液晶、発光ダイオード、プラズマディスプレイ、蛍光表示管及びエレクトロルミネッセンスディスプレイ等、各種の表示方式がありますが、願書及び図面に記載すべき内容は、どの方式でも同様です。

また、通電によって図形等が表示される物品であっても、一部の物品を除き、図形等が表示されていない形態（非通電状態の形態）で出願することができます（注）。

(注)図形等を表示することが、その物品の主たる使用目的であり(例えば、時計の時刻表示、温度計の温度表示等)、その図形等が表されていないならばその物品がどのように使用されるものであるか理解が困難な場合は、図形等を表示した状態を「一組の6面図」等とするか、又は図形等を表示した【通電状態の図】を加えることが原則的に必要です。

①図形状のセグメントが固定配置された「液晶表示盤」の場合

意匠に係る物品が、(各種物品の)表示部として組み込む部品である「〇〇用液晶表示盤」であって、図形等を表す部分が図形状のセグメントとして固定配置されたものの場合。

②物品の表示部に表示された図形等が、操作用の初期メニューや計測結果等を表示するものであって、次の要件全てを満たす場合

- a) 図形等が、その物品の成立性に照らして不可欠なもの
(その物品の使用目的の一部の機能を果たすために不可欠なものも含む)
- b) 図形等が、その物品自体の有する機能(表示機能)により表示されるもの
- c) 図形等が、変化する場合については、その変化の様相が特定しているもの

(これら①②の図形等については、意匠法第2条第1項の規定において意匠の構成要素と認められるものです。)

③表示部に表示された画像が、物品の操作用の画像であって、次の要件全てを満たす場合

(なお、ここで言う「画像」は、表示された個々の図形等を指すものではなく、種々の図形等が表示された画面部分全体を指します。)

- a) 画像が、当該物品の機能を発揮できる状態にするために行う操作に用いられるもの
- b) 画像が、当該物品に表示されるもの、又は当該物品と一体として用いられる物品に表示されるもの

(この③の画像部分については、意匠法第2条第2項の規定によって物品の部分の形態と認められるものです。)

以上のように、通電によって現れる図形等を表した意匠には3種類ありますが、それぞれ願書及び添付図面に記載すべき内容が異なります。以下に、種類別に記載すべき特有の内容、留意点について説明します。